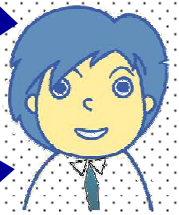




ねっとわーく



H24.09.03 No.37

■ 1の2の実践から

長谷部先生、お忙しい中、鬼のような催促にお応えいただき、ありがとうございました(^^)

■ 1年2組の授業から学んだこと

① 子どもたち自身がしっかりと仲間意識をもてたこと

学級テーマ『にこにこ1の2』が決まるまでの話し合い、「にこにこ1の2集会をしよう」の話し合いで、『にこにこ』という言葉とその意味を大切にすることで、「自分もみんなもにこにこできることをやろう」という思いが強くなってきたのでしょう。

また、日常的に、みんなで学習や活動をしていて楽しいということを感じていたことももちろんですが、本時に至るまでに、写真を手がかりにして入学してからの4ヶ月間を振り返り、楽しかったことをたくさん語ったことで、「1の2のなかま」という意識が子どもたちの心に育ったのだろうなと感じました。

② 相手意識を持ち、自分の思いを伝えること

そんななかまの一人であるK君とお別れをするにあたり、「K君にどんなことを伝えたいか、どんなことをしてあげたいか」という視点で「にこにこ1の2集会」について話し合いを進める中で、ひとりひとりがK君という相手意識をしっかりと持てるようになったのだろうと思いました。子どもたちひとりひとりが準備し手渡したプレゼントが、「K君だからこのプレゼント」というものであったことがそれを物語っていました。

さらに、事後研では、プレゼントに渡すときに添える言葉として、「プレゼントへ込めた思い」や、K君とその子の関わりから生まれた、その子ならではの言葉が語られれば、本時のねらいに迫ることになるということが話題になりました。相手意識の中に自分をどう関わらせるか、1年生といえども大事なことだなと改めて学びました。

③ 子どもの姿を見取ること

会が進むにつれて、K君の表情がさまざまに変わっていました。まわりの子も、いろいろな思いを胸に、メッセージを贈っていました。「こういう会だから、泣かないでね。」という友だちへの声かけなども大事にしたい姿でした。誉めてあげたいものです。さらに、言葉に表すことが難しいこの時期、表現された言葉以上に、子どもの表情をよく見取り、認め、感情に沿った言葉かけをすることも心していきたいことです。

また、友だちのプレゼントを見たくて集まったときやメッセージが聞き取れなかったとき、「どうする?」と子どもたちとともに立ち止まり、「どうすることがK君を送ることになるのか」を考えたところなど、流石でした。その会で子どもたちの何を育てるかを教師がしっかり持って子どもを見取っていくことが大事だと話し合われました。うっかり流してしまわないようにしたいものです。

④ 子どもたちの思い・活動を支える学級経営

やはりなんといっても、あったかい学級の雰囲気子どもたちの安心した姿・生き生きした活動の土台になるのだなと実感しました。みんなが安心できる学級づくり、自分たちでやり遂げた満足感あふれる活動づくりをめざしていきたいと思ひます。